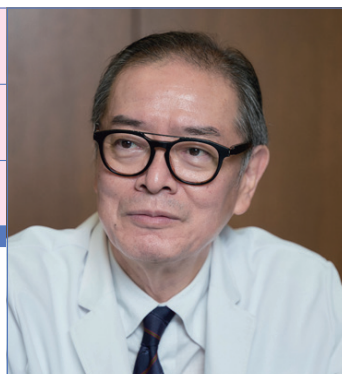


超高齢化社会にふさわしい “新しい個別化医療”を創っていく



国立がん研究センター
中央病院
病院長
瀬戸泰之 先生

東京・築地にある国立がん研究センター中央病院は1962年の開設以来、日本のがん医療を切り拓き、研究をリードする役割を担ってきた。病院長の瀬戸泰之先生は「今の時代にふさわしい、新しいがん医療を創っていく」と未来を見据える。

**年齢や健康状態などを考慮し
適切ながん医療を検証**

国立がん研究センター中央病院（以下、中央病院）は、新たながんの標準治療を確立すべく、さまざまな臨床試験や研究開発に取り組んでいます。患者さんに適した、先進的な医療を提供していく……。そのためにはがんの特性をみるだけではなく、患者さんの年齢や健康状態も加味した新しい個別化医療が必要です。

今後、がん患者さんの2人に1人が75歳以上となることが予想されています。特に80歳以上になると健康状態のばらつきが大きく、適切な治療選択の科学的根拠が十分でない部分もあります。患者さんの事情を考慮した個別化医療を提供し、成果を

しっかりと検証していく。超高齢化社会にふさわしいがん医療のあり方を描くべく、先頭に立って取り組んでいます。同時に、患者さんご自身が日頃から自分の健康状態を認識し、どのような治療の受け方が自分にとって適しているのかを主体的に考えられるように、正しい情報発信も続けていきます。

標準治療の確立という面では、症例数が蓄積しづらい希少がん・難治性がん対策に取り組むことも、全国からがん患者さんが訪れ、手術件数が多い中央病院の役割です。当院では希少がんセンターを設けて全国の症例や治療法の情報を集約し、全国の医療機関に提供する役割も果たしています。このほかにも、より良いがん医療を全国へ届けていくために分散型臨床試験の推進や新しい手術用ロボットの開発にも取り組んでいます。

お問い合わせ



国立がん研究センター基金
The National Cancer Center Foundation

国立がん研究センター中央病院 寄付募集担当
☎03-3547-5333
メール: ncckifu@ncc.go.jp

国立がん研究センター東病院 寄付募集担当
☎04-7133-1111 (内線91460)
メール: kifu@east.ncc.go.jp




治療に結びつかない取り組みは診療報酬ではカバーできない部分も多く、現場の情熱で支えているのが現状です。多くの方のご寄付を誰一人取り残さない医療の実現へつなげます。（談）